

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名: 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名: 福島県立本宮高等学校 大田智寛 平成 30 年度第 2 回次世代リーダー育成研修
活動名: 組織に求められる教員へ～目的意識をもった組織へ～	
解決すべき課題: 課題把握のため、カリキュラム・マネジメントアンケートを実施した結果、改善が必要だと感じている内容に、「客観的データ(模試等の)を共有し、学校全体で生徒の実態を把握する。改善のための具体的手立てを立案し、全体で組織として取り組む。」「学校全体として見直してみたり、指導法を改善したりすることには、まだ手付かずである。」「反省改善を出す、それに沿って改良するための時間的な余裕がない。」「個の頑張り→強い・集団としての頑張り→弱い」という記載がされており、学校教育目標に向かって組織で業務に取り組めていない課題が見えてきた。 このことから、目標を「組織内における教職員の目的意識向上」として、研修に取り組むこととした。 課題となった原因の1つ目は100年以上続く伝統校であるという点である。伝統であるがゆえ過去の成功の記憶による前例踏襲で仕事をしてしまう点がある。2つ目は、職員の大半が教育目標(目的)を意識せずに仕事をしてしまう傾向がある。そのため、教育活動が効果的に実施できていない現状となっている。 教職員等中央研修(第2回次世代リーダー育成研修)で学習した「カリキュラム・マネジメントの考え方・取り組み方」や「学校を変化させる考え方」を参考に、教職員一人一人が組織内で共通の目的意識(学校教育目標)をもって、働ける(同じ方向性で)ように改善できないかと考え取り組むこととした。	
目標・方針: 目標…全職員が教育目標を意識し業務のあり方や教員としてのあり方を考え実践できるようにする。 方針…1 目的・目標・手立ての関係性が分かるような研修を実施する。 2 職員同士が積極的に関われる研修を実施する。 3 管理職と相談し、年間計画に研修の日程を新たに組み込む。	
活動内容: 1 研修全体の流れは、教育目標の実現を目指すことを意識しながら、学校の仕組みや組織のあり方を考える研修から個人の行動を考える研修となるように①～④の研修を組み立てた。(図1) 2 また、研修一つ一つの取組は、全員で思考→個人で思考となるように徐々に個人で考えを深められる研修にした。(図1)	
活動の成果: 研修を重ねることで、授業法の改善について、さらに教育目標実現や改善のあり方、組織のあり方等に受講者自身の「気づき」が生まれ、一定の効果があったと考えられる。また、学校のあり方や考え、新しい学校づくりをしようとする気運が育った。(表1)	
アピールポイント(アイデアや工夫): 1 アイスブレイクやワークショップなど取り入れて、受講者が授業でも活用できるような研修手法を扱った。 2 アンケート用紙に「明日から何をしたいと思ったか」という質問をし、実生活に落とし込めるようにした。	

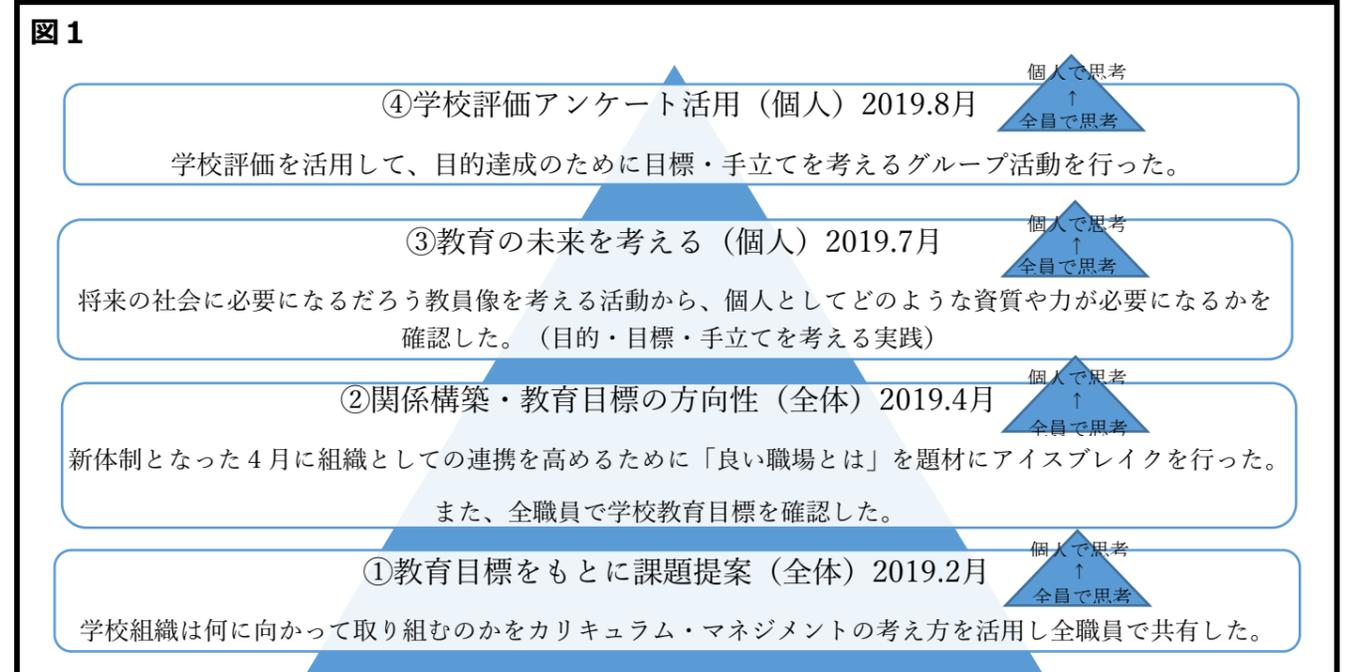


表 1

研修種類	研修は満足できるものでしたか(抜粋)	研修を通して何に気が付きましたか(抜粋)
①	<ul style="list-style-type: none"> このようなミーティングを今後も設定して学校の方向性を決めていくべきと思いました。 各個人がそれぞれ頑張るだけでは、だめだということ共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> アイデアを出し合うことで、目標・対策が具体的に見えました。 目標やとらえ方が各教員によって異なることが分かった。 共通理解(認識)の重要さ大切さ。 PDCAのCAがない。
②	<ul style="list-style-type: none"> 新しい先生方、今までいた先生方の知らない側面を知ることができてよかった。導入部分のアイスブレイクをLHRでも活用したい。 コミュニケーションの大切さを改めて実感できた。 	<ul style="list-style-type: none"> できることを一つ一つやっていくしかない。 分かったこと、特徴、相手の良さを声に出して伝えることの大切さ。 抽象的に考えてしまいがちなテーマを、具体化して落とし込んで考える活動であったと思いました。
③	<ul style="list-style-type: none"> ブレインストーミングを通し、考え方が整理され、様々な意見に触れることで自分の中でも考えが深まった。 漠然と頭の中で考えていたことが視覚化することで、はっきりしました。 生徒に対する授業法として参考になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的にどう行動したらいいか名言化できないことが多いので、文字化、構造化して考えが整理できたのがよかったと思います。 生徒を動かす授業をしていないと思いました。 学びの地図である新学習指導要領をしっかりと読み込み、指導と評価を行うことで、生徒に身に付けさせるべき能力を育成することの大切さを再確認した。
④	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価をじっくりと読むことができた。自分の目標を確認できた。これらの研修を通し、学校目標を意識するようになりました。 毎年、学校評価アンケートを実施し、結果の確認はしていましたが、自己評価と照らし合わせて、手立てができていないかなど今後の目標を立てるうえでとても参考になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、教員の認識の違いなど問題点や改善点が見えてように思います。目的を達成するため、目標を立て、手立てを行い、手立ては段階的に設定を変えていく。今後役立てていきたいと思いました。